



## お知らせ

### 平成20年度の開園は4月1日(火)です

当日、先着200名に野草の苗をプレゼントします。

#### 主な催し

##### 展示

- 平成19年度写真コンテスト入賞作品展  
→4月5日(土)～4月30日(水)
- 春の山野草展  
→5月3日(土)～5月5日(月)
- ポタニカルアート作品展  
→9月7日(日)～9月21日(日)
- きのこ写真展  
→10月15日(水)～10月29日(水)
- 平成20年度写真コンテスト入賞作品展  
→11月1日(土)～11月24日(月)

##### 観察会

- ガイドウォーク  
→4月～11月までの毎月第2、第4日曜日
- 四季観察会  
①5月18日(日) ②7月20日(日)  
③9月21日(日) ④10月19日(日)  
⑤2月22日(日)
- 早朝バードウォッチング  
→5月18日(日)

##### 体験教室

- ハーブ石けん作り  
→4月29日(火)
- 野草園オリエンタリング  
①5月3日(土) ②10月5日(日)
- ポニー乗馬体験  
①5月3日(土) ②5月5日(月)
- 木工工作教室  
①5月5日(月) ②8月17日(日)
- ガーデニング教室  
①5月11日(日) ②6月1日(日)
- 山野草の育て方教室  
①5月25日(日) ②6月22日(日)
- 野草園の素材による工芸教室  
→7月27日(日)
- 親子草花遊び  
→8月10日(日)
- 風作り教室  
→10月12日(日)

##### 工作コーナー

→夏休み期間中

##### コンテスト

- 野草園の魅力を探る写真コンテスト  
応募締切→10月13日(月)

##### その他

- 春の野草園祭り  
→4月26日(土)～5月6日(火)
- ミニSL運行(2回)  
①4月26日(土)～4月27日(日)  
②10月4日(土)～10月5日(日)
- 秋の野草園祭り  
→10月5日(日)
- 紅葉観賞ときのご鍋  
→10月19日(日)

※都合により内容の一部が変更になる場合があります。

◀野草園のホームページ▶  
<http://www.yasouen.jp>

#### この花を採せ!!

今回の花は 見つけられるかな?





▲セツブンソウ (開花時期4月)    ▲オオバキスミレ (開花時期5月)    ▲チョウカイフスマ (開花時期6月)

## 時々見かける来園者?



**キジ (キジ科)**

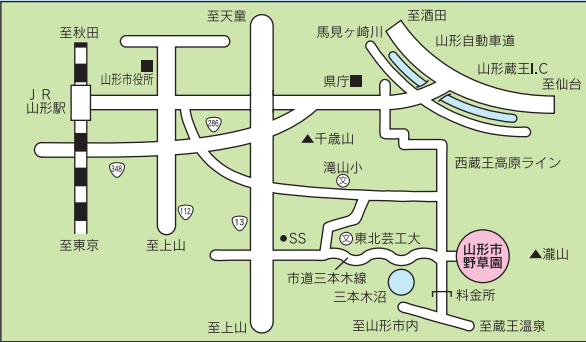
日本国内では年間をとおり見られる留鳥で、日本の国鳥に定まっています。写真はオスのキジで、野草園内では、花の草原北側や、野草の丘北側を散歩?のために来園。

### ●開園時間等

- ・開園時間  
4月～5月 9:00～16:30  
6月～8月 9:00～18:00  
9月～11月 9:00～16:30
- ・休園日/毎週月曜日  
ただし、月曜日が祝日・休日の場合はその翌日
- ・冬期間休園/12月～3月
- ・入園料  
大人/300円  
高校生/150円  
小中学生/100円  
(ただし、土曜日は小・中学生無料)  
団体割引(20人以上の場合)  
大人/240円  
高校生/120円  
小中学生/80円

### ●交通案内

- ・JR山形駅より山形交通路線バス西蔵王・野草園行き終点下車
- ・山形自動車道蔵王I.Cより西蔵王高原ラインを蔵王温泉方面へ15分
- ・滝山小、芸工大方面より岩波経由又は、ウェルサンピア方面より市道三本木線経由で自家用車15分



# 山形市 野草園だより 34号



## サクラソウ (サクラソウ科)

開花5月中旬～6月中旬

山麓や川岸の原野など、低湿地に自生するサクラソウ科、サクラソウ属の植物です。国内では北海道南部から九州まで広く分布しています。江戸時代には品種改良が盛んにおこなわれ、日本的な花の代表となっていますが、今日では河川改修などの影響で、絶滅が心配される植物の一つとなっています。因みに、埼玉県さいたま市田島ヶ原のサクラソウ群落は国の特別天然記念物に指定され保護されています。名前については、樹木のサクラに花の形や色が似ていることに由来しています。

平成  
19年度

## 写真コンテスト最優秀・優秀作品

### 最優秀賞作品



野点に和む

清水幸雄さん

### 優秀賞作品



野の花

山ノ内昭彦さん

### 優秀賞作品



自然にふれて

小鹿充重さん

審査を終えて

審査員代表  
横山芳明

野草園の魅力を探る写真コンテストが14回を迎えました。本年も県内はもちろんのこと、宮城県、福島県からも応募がありました。

一般の部では、55人から190点、小中学生の部では、14人から44点で、全体では96人から234点と昨年より約100点多い応募がありました。

さる、10月19日慎重に審査をおこない入賞者が決定しました。

一般の部で最優秀の清水さんの「野点に和む」の作品は、背景が山々に囲まれた丘の上にある東屋で、茶会に子供と一緒に参加した若夫婦の姿をとらえたものであります。子供が始めて飲んでとても好きな味だったのか、顔の表情がとてもかわいらしく、心にも伝わってきました。また、超広角レンズを使い、広い東屋を計算された大胆な構図にまとめるなど、素晴らしい作品であります。

小中学生の部で最優秀の田苗くんの「花とアゲハ」の作品は、ピンクの花に止まる瞬間をうまくとらえたものであります。絞りとシャッタースピード、それにピント、すべて計算されたような素晴らしい作品であります。

全体的には、花、スナップ、風景と内容が豊富で、構図、色彩とも素晴らしい作品が多く、審査も繰り返しながら決定しました。入賞者のみなさんおめでとうございます。これからも野草園のかくれている魅力ある被写体を探しながら、晩秋から初冬の作品創りにも挑戦してほしいものです。

平成19年11月1日

### 小中学生の部 最優秀賞作品



花とアゲハ

田苗潤之介さん(日本大学山形中)

## 自然のたくみさ・ふしぎさ

### 寒さに耐えるシャクナゲの知恵

アズマシャクナゲは、標高800～2,000mの明るい落葉樹林内や林縁、尾根筋などに生えています。根は細く浅根のため、基本的に、乾燥に弱い植物とされています。以前、シャクナゲ栽培の名人の方から聞いたことがあるのですが、「シャクナゲ栽培のコツは、早朝の水やりだよ」ということでした。これが全てではないでしょうが、冬に積雪があり、夏でも湿潤な気候を好むこの植物にとっては、重要な栽培のポイントなのかも知れません。ところで、なぜアズマシャクナゲは、葉をつけたまま、極寒の地で生きていけるのでしょうか。その秘密のひとつが、アズマシャクナゲの葉にあります。今度は葉を観察してみましょう。葉の表面はワックスを塗ったような革質で、倒披針状長楕円形をしています。葉の縁に鋸歯はなく、裏面を包むように丸まっています。また、葉の裏面には、淡褐色で綿状の柔らかな枝状毛が密生しています。一般に、植物体内の水分が一番奪われるのは、葉の裏面にある気孔からとされています。アズマシャクナゲの葉は、直接、寒風が葉の裏面に当たるのを防ぎ、水分が奪われないような構造になっているのです。

蔵王を散策すると、「今年は花数が多いな」とか、「今年は少なくて残念」といった感想を持つことがあります。これは、アズマシャクナゲなどの多年性植物に自然に起こる現象で、隔年開花(かくねんかい)と呼ばれます。植物にとって種子を成長させるためには、多くの養分が必要です。そのため、どうしても翌年の花芽が少なくなってしまうのです。(普通、管理された庭木などでは、毎年多くの花を楽しむため、花柄摘みと称して開花後の花を摘み取り、翌年の花芽形成により多くの養分が回されるように管理します。)

散策の途中で出会う植物たちの、純粋な美しさと、生きるためのたくみな知恵に接し、日常のストレスを、暫し忘れてみませんか。

参考文献：『植物の世界 65』 朝日新聞社  
『日本の樹木 12』 学習研究社

山形市野草園は、蔵王連峰の山形県側に位置し、野草を中心に管理育成、植栽、展示をおこなっている植物園です。

今回は、数ある蔵王の美しい植物の中から、「アズマシャクナゲ」を取り上げ、観察してみることしましょう。

### 上品・可憐な山の花

日本に自生するシャクナゲの仲間は、大きく東北アジアに分布するシャクナゲ類に近い仲間の北方系と、中国大陸南部のシャクナゲ類に近い仲間の南方系の2種類に分けることができます。(蔵王においては、北方系の「ハクサンシャクナゲ」も観察できます。)

ここで取り上げた「アズマシャクナゲ」は、「ツクシシャクナゲ」と同じ南方系に分類されますが、日本に自生する南方系シャクナゲ類の中では、分布の北限が、宮城県から山形県南部と、最も北に自生する種類とされています。



▲園内のアズマシャクナゲ

学名は *Rhododendron degronianum* Carr. ツツジ科ツツジ属の常緑低木で、樹高は3mに達します。樹形は全体的に、こんもりと、球状に展開した形で、時には登山道にせり出してくることもあります。雪解け後、気温の上昇に伴い、枝先の蕾は次第に膨らみ、5月～6月、濃いピンク色だった蕾は、淡いピンク色の花冠(花)へと変化していきます。漏斗状鐘形の花冠を間近で観察してみましょう。花の径は4～5cmで、1/3ほどまで5裂しています。雄しべは10本、雌しべは1本、このアズマシャクナゲは5数性の植物とされています。

# 植物ウォッチング

## 野草の名前に注目

植物図鑑を眺めていると「ヒメ○○○」といった植物の名前を目にすることがあります。名前からして「ヒメ=姫」のイメージで、さぞ小さくて可愛い花なのだろうと想像してしまいませんか。そこで今回は、ヒメが名前につく植物と付かない植物の中から、野草園で見比べることが可能な植物をとり上げて紹介したいと思います。



▲ザゼンソウ

▼ヒメザゼンソウ



### ザゼンソウとヒメザゼンソウ

サトイモ科

どちらも湿潤な環境を好むサトイモ科の多年草です。根茎から伸ばす葉の大きさでは、ザゼンソウが約40cm、ヒメザゼンソウが約15cm。花のように見える仏焰苞の大きさでも、ザゼンソウが約30cm、ヒメザゼンソウは約5cm程と大きな差がみられます。種子の成熟までの時間をみると、ザゼンソウは3ヶ月程で成熟しますが、ヒメザゼンソウでは約1年を要します。



▲オドリコソウ

▼ヒメオドリコソウ



### オドリコソウとヒメオドリコソウ

シソ科

これも、草丈・花の大きさから比較してみると、オドリコソウでは草丈30cm～50cm、花冠の長さ3cm～4cmであるのに対し、ヒメオドリコソウは草丈10cm～25cm、花冠の長さ約1cmとヒメオドリコソウが小さくなっています。外見的にはヒメオドリコソウの方が、上部に密に葉や花をつけます。歴史的にもオドリコソウは在来種、ヒメオドリコソウは帰化植物といった違いがあります。



▲ヒゴタイ

▼ヒメヒゴタイ



### ヒゴタイとヒメヒゴタイ

キク科

この2つの場合、草丈ではヒゴタイが約100cm内外であるのに対し、ヒメヒゴタイは約120cmと大小の逆転が見られます。球状となった花の集合体に関してはヒゴタイが直径約5cmに達するのにに対し、ヒメヒゴタイでは約1cmと「ヒメ」の名にふさわしい小ささとなっています。あわせて、ヒメヒゴタイの場合、淡い紫色の附属片を持つ点などから「姫」のイメージを持たれたのかもしれません。



▲シャガ

▼ヒメシャガ



### シャガとヒメシャガ

アヤメ科

どちらも栽培が容易な多年生草本です。草丈は、シャガが約60cm、ヒメシャガでは約30cmと、ヒメシャガは半分になっています。花の直径はどちらも約5cm程と大きな差がありません。そのかわり、1本の花茎につける花の数は、ヒメシャガでは2～3個程なのに対し、シャガでは倍以上もつけることができます。シャガは3倍体のため種子を作れませんが、ヒメシャガは種子を作れるといった違いもあります。



エゾアジサイ



メタカラコウ



〈7月の野草園〉

## 夏を彩る植物



タカネ  
マツムシソウ



トモエソウ



アカバナシモツケンソウ



ヤナギラン



ヤマボウシ

## 山形の山菜

### ワラビ

山菜の中で最も知名度が高い植物といえば、10人中8人は「ワラビ」と答えるのではないのでしょうか。それくらい一般的山菜のこのワラビ、興味本位でちょっと調べてみることにしましょう。

ワラビは コバノイシカグマ科 ワラビ属の植物で、通常シダの仲間分類されている植物です。酸性土壌を好み、成長すると高さ1m位にもなりますが、冬には葉が枯れてしまい、ここ西蔵王では5月頃に若芽を地面から突き出してきました。

シダの仲間ということで、薄暗い日陰の湿った場所に生育しているように連想されがちですが、実は日当たりのよい明るい場所を好む、明るい性格の植物です。

私たちが普通に食用としているのは、まだ硬くなる前、展葉前の若葉(葉柄)ですが、その他にも根茎をくだいて中の澱粉(ワラビ粉)を抽出し、利用することもできます。

「シダの仲間の場合、形がどれも似ているので、見分けが付きにくい」と言う話をよく聞きますが、食べる時だけ解ればいい人は、八百屋さんに並んだ現物をじっくり観察しておぼえる事にしましょう。

ところで、万が一、ワラビをそのまま天ぷらとか、お味噌汁の具として使ってしまう方がいないように一言。ワラビにはブタキロサイドと呼ばれる有毒成分が含まれていますので灰汁(あく)抜きをする必要があります。簡単な方法として、鮮魚などが入っていた発泡スチロールの(ふた付)容器にワラビを入れ、適量の水灰(山形で言う「あく」)を入れた後、熱湯をワラビが浸るくらい注ぎ、密封して約一晩放置する方法で灰汁抜きができます。

皆さんも体を動かし、自然からの贈り物を楽しんでみませんか。